

2008年3月期中間決算 事業の業績(連結)

2008年3月期中間決算 連結業績

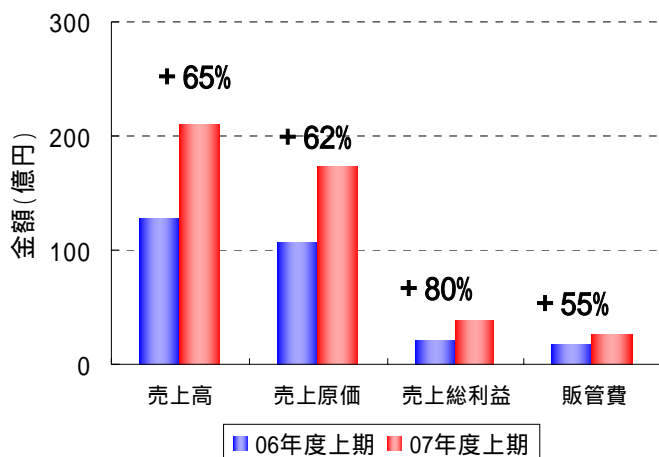
(単位:百万円)

損益	07年3月期 上期	08年3月期 上期	前年同期比
売上高	12,801	21,132	165%
売上原価	10,696	17,353	162%
売上総利益	2,104	3,779	180%
販管費	1,740	2,691	155%
営業利益	364	1,087	299%
経常利益	490	1,130	231%
純利益	276	494	179%
1株当たり 純利益(円)	5.86	10.71	183%

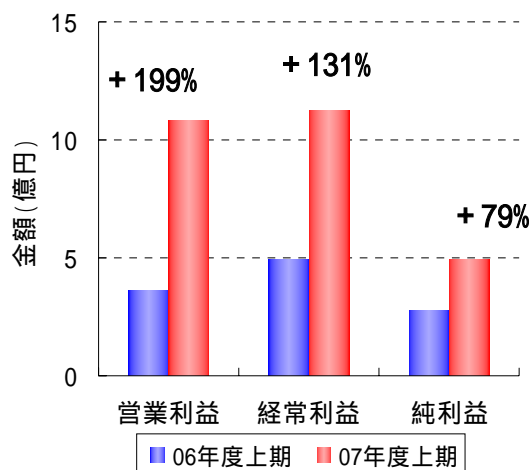
特徴

1. 売上高は、前年同期に対して65%増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化とリチウムイオン電池正極材料の伸びが大きく寄与しています。また、電子印刷用材料、フェライト材料、顔料も伸びました。一方、アナログテープ用磁気記録材料は引き続き売上を減少させています。
2. 売上原価は、前年同期に対して62%増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化とリチウムイオン電池正極材料の伸びが主要因です。製造コストの原価低減活動に引き続き努めていますが、硫酸コバルトの高騰の影響で相殺されています。
3. 販管費は、前年同期に対して55%の増加に留まりました。前年下期から取り組んでいる物流コストの改善活動が大きく寄与しています。
4. 以上の結果、営業利益は前年同期に対して199%増加しました。また、純利益については、H.C.スタルク社のM&A経費や退職慰労金引当金を特別損失に計上したことにより、前年同期に対しては79%の増加に留まっています。

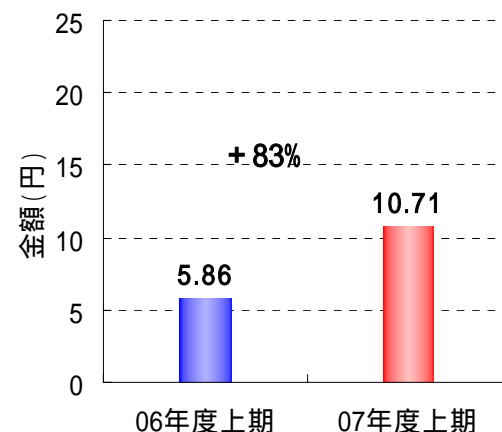
売上高、販管費等



利益



一株当たり純利益



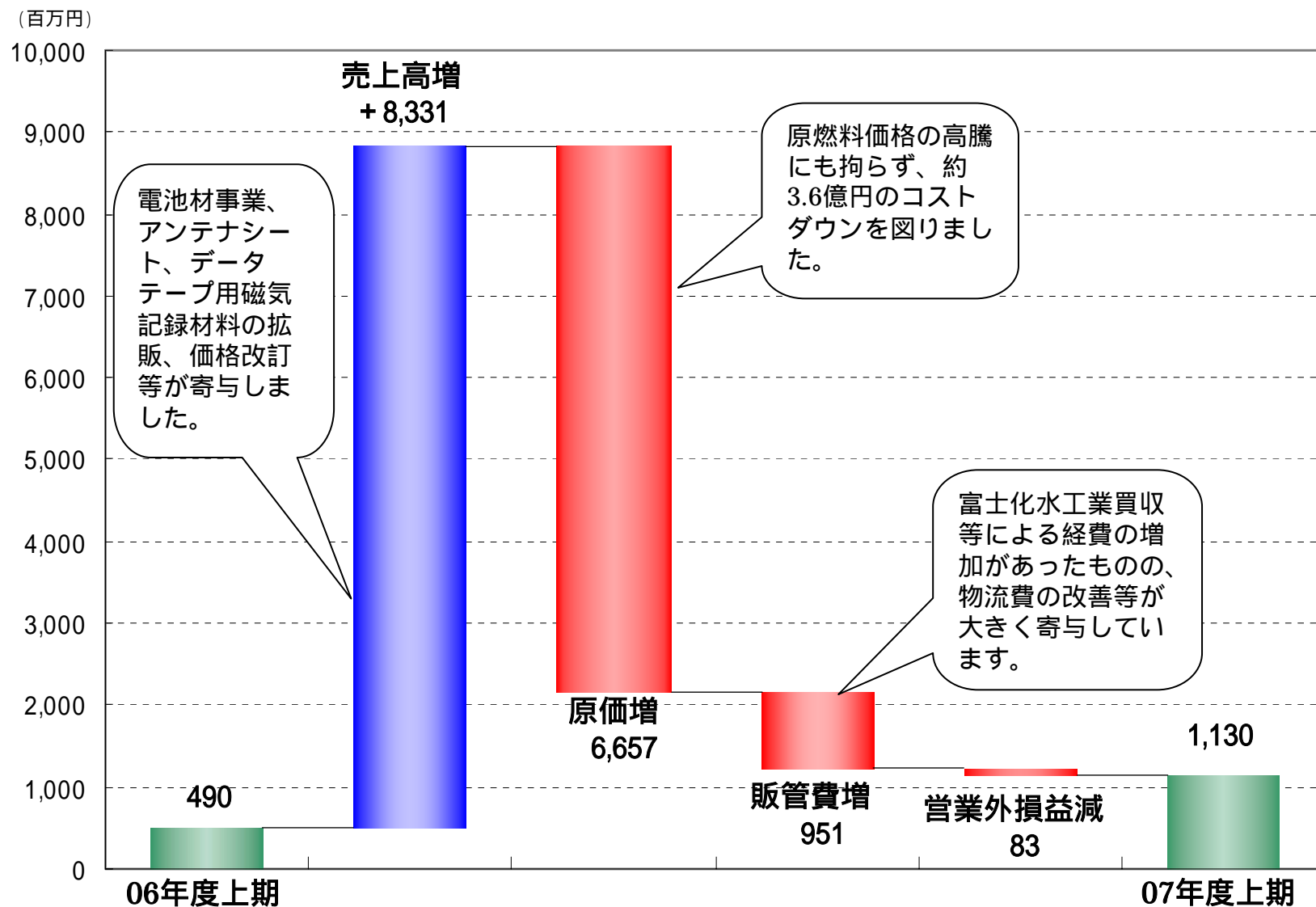
セグメント別売上高

(単位：百万円)

	07年3月期 上期	08年3月期 上期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	7,193	6,884	96%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	5,422	8,944	165%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	186	5,304	2,852%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	12,801	21,132	165%	

1. 機能性顔料事業では、電子写真用材料、顔料が伸びたものの、アナログ磁気記録材料の販売が引き続き減少しているため、前年同期比4%の減収となりました。
2. 電子素材事業では、リチウムイオン電池正極材の売上が大きく成長したこと、新規事業のアンテナシート等も伸張していることで、前年同期比65%の大幅な増収となりました。
3. エンジニアリング事業では、富士化水工業(株)の事業が大きく貢献し、前年同期比2,852%の増収となりました。

経常利益の分析



(単位：百万円)

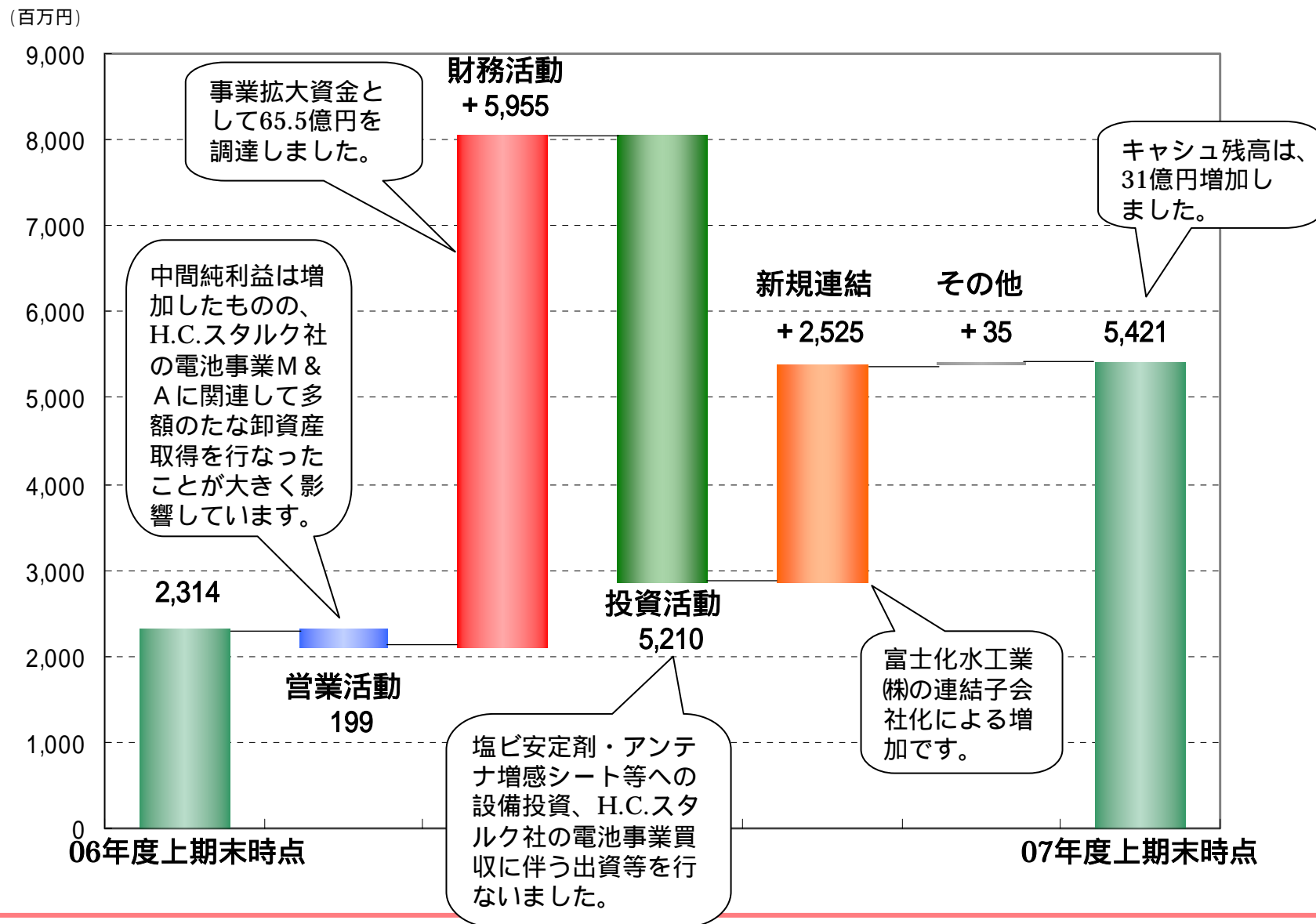
貸借対照表科目	07年3月期 上期	08年3月期 上期	増減
流動資産	14,524	28,300	13,776
固定資産	24,529	28,192	3,663
流動負債	7,587	17,773	10,186
固定負債	2,745	9,414	6,669
株主資本	27,881	28,188	307
少数株主持分	221	396	175
総資産	39,053	56,496	17,443
現金/同等物	2,314	5,421	3,107
キャッシュフロー	295	767	1,062
ROE (%)	1.9	3.4	1.5

ROEは年換算で算出。

貸借対照表科目の特徴

1. 総資産は、174億43百万円増加しました。約65%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社からの電池事業買収に伴うもので、残りはその他事業の拡大に伴うものです。
2. 流動資産は、137億76百万円増加しました。約65%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社の電池事業買収に伴うもので、その他が売上債権、たな卸資産等の増加です。
3. 固定資産は、36億63百万円増加しました。新規事業に対する設備投資に伴う建設仮勘定、H.C.スタルク社の電池事業買収、富士化水工業の連結子会社化等により増加しました。
4. 負債は、168億55百万円増加しました。約95%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社の電池事業買収、設備投資資金としての借入金の増加です。
5. キャッシュ残高は、前年期末比31億7百万円増加しました。
6. ROEは、M&A関連費用等を特別損失計上しましたが、1.9%から3.4%に増加となりました。

キャッシュフローの特徴



主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益	
	07年3月期 下期	08年3月期 上期	07年3月期 下期	08年3月期 上期
富士化水工業株式会社	6,642	5,694	212	95
戸田マテリアル株式会社	915	1,177	82	14
戸田ピグメント株式会社	1,057	880	5	33
戸田工業ヨーロッパGmbH	230	1,021	7	77
戸田アメリカInc.	1,058	1,087	16	28
戸田塑磁材料(浙江)有限公司	241	295	39	42

富士化水工業株式会社の決算は1月末。

1. 富士化水工業(株)が行う環境エンジニアリング事業は、建設業法改正の影響で受注が減少するとともに、調達資材の高騰で利益が悪化しています。下期は受注が回復することを期待しています。
2. 戸田マテリアル(株)のリチウムイオン電池材料は、売上が拡大しています。稼働率向上に伴い、利益面での改善も進展しています。
3. 戸田ピグメント(株)は、原燃料価格上昇の影響を原価低減活動で吸収しきれず、経常利益が一段と悪化しました。
4. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、H.C.スタルク社の電池事業買収に伴い販売窓口となったため、売上高・経常利益とも大幅に増加しています。
5. 戸田アメリカInc.は、大きな変化はありません。
6. 戸田塑磁材料(浙江)有限公司は、中国国内での拡販により、増収増益を継続しています。

(単位：百万円)

	07年3月期 (A)	08年3月期 上期	08年3月期 計画(B)	伸長率 (B/A)
設備投資	1,709	1,060	2,400	140%
研究開発	1,513	807	1,600	106%
減価償却	1,829	1,086	2,200	120%

1. 設備投資の内訳は、アンテナ用フェライトシートの生産設備、塩ビ安定剤生産設備、フェライト生産設備の更新等です。下期には、カラートナーキャリア材生産設備、塩ビ安定剤生産設備の新設等を予定しています。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点的に配分しており、引続き拡大させる計画です。
3. 減価償却費については、償却制度の変更に伴う新たな償却費負担が、半期で約1.5億円含まれています。

■ 3期連続の増収増益に向けて前進中

1. **売上高**は過去最高

211億円 (+65%)

2. **経常利益**は大幅増

11.3億円 (+131%)

3. **純利益**も大幅増

4.9億円 (+79%)

■ 事業構造の転換、経営の体質改善が進行中

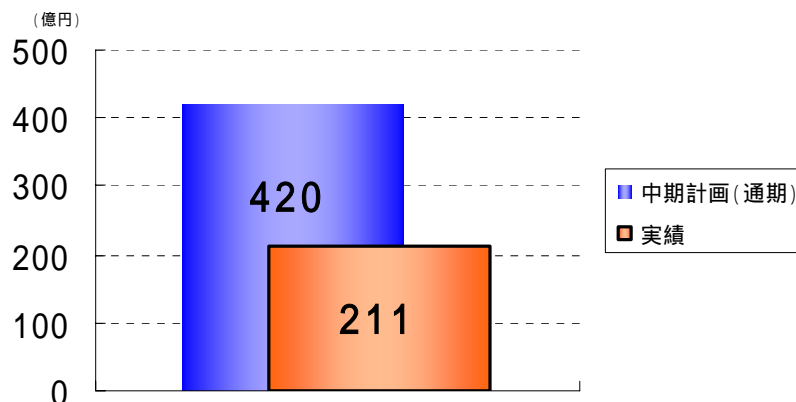
1. 富士化水工業の事業規模が貢献

2. 電池材料事業の収益が改善

3. 物流費等、経費削減を積極的に推進

中期経営計画に対する達成状況

売上高（08年3月期上期）



利益（08年3月期上期）

